

不二製油グループ本社株式会社 2018年度 上期決算説明会 主な質疑応答

・日時	： 2018年11月15日（木）13:00～14:30			
・出席者	代表取締役社長	最高経営責任者	CEO	清水 洋史
	取締役	最高財務責任者	CFO	松本 智樹
	取締役	不二製油(株) 代表取締役社長		大森 達司

<日本について>

Q. 上期のチョコレートの停滞要因と今後の動向は

A. 1Qは好調も、2Qの猛暑による需要減および、天災による関西・北海道を中心とした被害によるインバウンドの減少があった。足元の需要は回復してはいるが、顧客の販売見通しや消費者の健康志向の継続により下期は挽回できると考えている。

Q. クリーム等、乳化発酵素材の構造改革の進捗は

A. ①街のパン洋菓子店等での人手不足という問題の解決に寄与するため、コーディネートビジネスを進めている。来期はひとつの柱として育てていきたい。②USS製法による原料のほか、他の植物性素材を応用した新ジャンル開拓を進めている。

Q.大豆事業の「選択と集中」の狙いは

A. 大豆の価値が消費者に受け入れられる時代となった。健康栄養市場や機能性素材など付加価値が高い分野に集中していく。

<アジアについて>

Q. 東南アジアの成長が弱い、課題認識は

A. 東南アジアは個々の国別マーケットは小さく、需要もそれぞれ異なる。当社は、統括会社が主導した国別ターゲティングと、各国の需要に対する開発、販売体制を整えつつある。R&Dセンターを核とし、統括、開発、販売の三位一体となって対応を進める。

Q. 中国の第二工場が想定を上回る収益貢献を果たしている背景は

A. 従来は第一拠点だけでは旺盛な需要に対し供給が追いついていなかったこと、またカスタードパンのような菓子パン需要の急拡大の中、品質や美味しさの面で当社のフィリング製品が求められたことから、好調な稼働開始を実現している。

<その他>

Q.チョコレート用油脂ビジネスへの他社参入ある中、不二製油グループの競争優位性とはなにか

A. パーム、シアといった油脂原料を生産地で、また UNIFUJI 社を中心にサステナブルなパーム油のサプライチェーンの構築ができあがっていること。および、ブラジルやオーストラリアなど、世界でチョコレート拠点の拡充が進み、チョコレート事業を通じてマーケットニーズの把握ができることが強みである。

Q. 足元では好材料が揃いつつあり、来期は成長局面と思われるが、リスクは何か。

A. キャパシティが不足していた製品の能力増強は完了しつつあり、今後トップラインは伸びてくる。ただし、人件費等固定費の増加は予想され、合理化を図りながらバランスをとっていく。リスクとしては、競合関係の変化、および異業種からの事業参入等が挙げられる。

以上